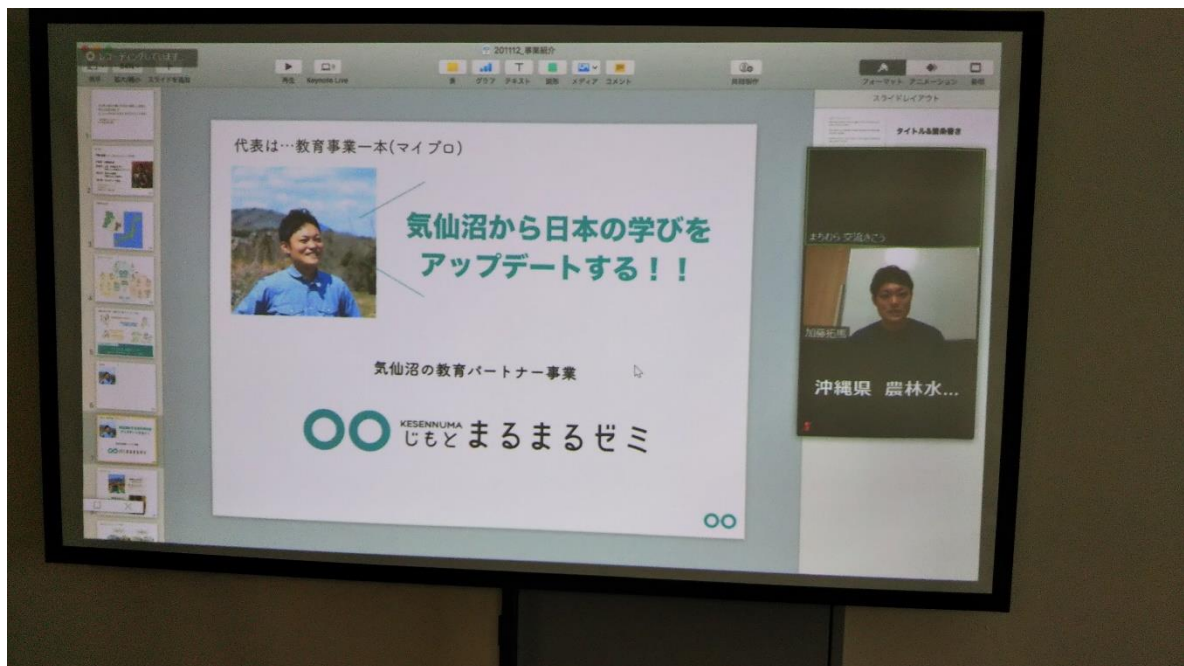


東日本大震災を機に気仙沼に移住した若者と
地元の若者が起こす

ローカルが元気であるための 人材育成まちづくり会社



高校生の「ふるさと自慢大会」は大変いいね！

2020年11月12日 2020年度第3回(通算143回)農山漁村コミュニティ・ビジネスセミナー
【講師】一般社団法人まるオフィス 代表理事 加藤 拓馬 氏(宮城県気仙沼市)を開催しました。

今回の農山漁村コミュニティ・ビジネスセミナーは、新型コロナウイルス感染症の感染防止を図る観点から、Web 会議システム Zoom ウェビナ、質疑応答は、Q & A機能を活用して行いました(オンライン配信のみで、会場参加は無し)

また、講師の加藤さんは、気仙沼市の自宅からオンラインで講師。

東日本被災地支援と、より多くの人に農山漁村コミュニティビジネスを知っていただき、その取り組みを促進するために、また、オンラインセミナーの利便性をご理解いただくために、農山漁村コミュニティ・ビジネスセミナー開始10周年を記念して、無料参加として開催しました。

加藤さんが代表を務める一般社団法人まるオフィスは、宮城県気仙沼市で活動するまちづくり会社。東日本大震災を機に気仙沼に移住した若者と地元の若者が2015年春に立ち上げました。日本社会は都市集中型か地域分散型かの選択を迫られるなかで、ローカルが元気であるためには「学び」をアップデートする必要があります。

絶対解を丸暗記する教育でも、まちの持続性のための教育でもない。それでは、どんな学び？私たちは気仙沼という、いちローカルから、教育や人材育成を通して、わくわくしている人が輩出される地元の仕組みづくりを次の3事業で挑戦しています。

- ① 教育パートナー事業は、地域ぐるみで学びの仕組みづくり、気仙沼の教育パートナー事業、通称まるゼミは、中高生向けの漁師体験プログラムとしてはじまり、現在は地域と学校の双方に入って中高生の実践・挑戦を応援しています。
- ② 若者向け人材育成事業(まちづくり実践塾「ぬま大学」運営)は、「やりたい」をかたちにする半年間の実践塾。約半年間、6回の講義を通して、自らが気仙沼で実行するプラン(=マイプラン)を作り上げていくプログラム。すでに地域で活躍されている先輩起業家や活動家を「まちの講師」として迎え、アドバイスをもらいながら、受講生自身がマイプランの作成に取り組んでいきます。
- ③ エンゲージメント事業(地域内×外で起こる挑戦を応援)は、気仙沼市移住・定住支援センターMINATO 想いに寄り添う、暮らしの総合窓口です。

自己紹介

かとう たくま

加藤 拓馬 (31) 一般社団法人まるオフィス 代表理事

1989年 兵庫県出身

2007年 上京・早稲田大学へ
中国ハンセン病回復村ワークキャンプ

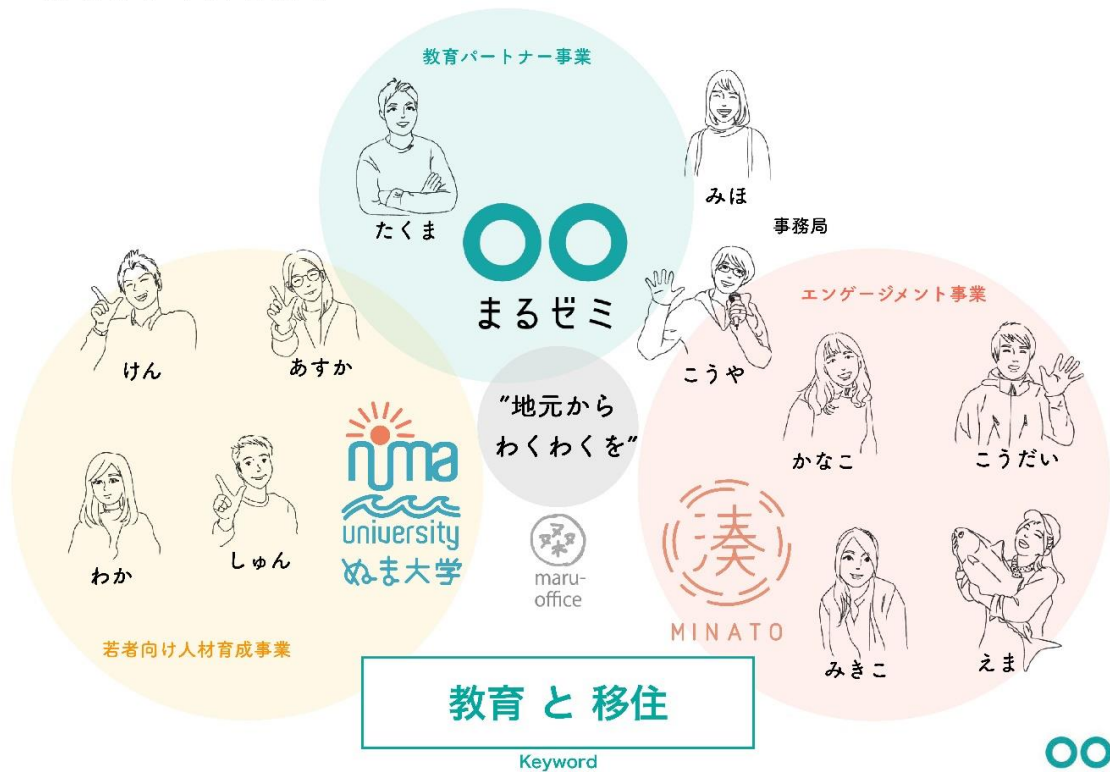
2011年 東日本大震災
卒業とともに気仙沼へ

2015年 まるオフィス設立

気仙沼市探究学習コーディネーター
気仙沼高校フィールドワーク・アドバイザー
唐桑町まちづくり協議会 幹事



まるオフィスとは？



1989 年生まれの兵庫県出身の代表の加藤さんをはじめ一般社団法人まるオフィスの人材は多士済々です。

理事兼事務局長・ディレクターの加藤航也さんは福井県出身、理事・マネジャーの小林峻さんは東京都八王子市出身、マネージャーの矢野明日香さんは岐阜県出身、千葉可奈子さんは地元気仙沼出身、メンバーの根岸えまさんは東京都出身、藤田美貴子さんは南三陸町出身、平田和佳さんは香川県出身、加藤広大さんは神奈川県出身と多様な出身が活動しています。

加藤さんが取り組んでいる地元まるまるゼミとは、なんだろうという疑問に丁寧に答えてくれました。その代表的な答えが「高校生の自慢大会」です。

総合的な学習の時間、探求の時間を利用して高校生のマイプロジェクトアワードを実施しています。

高校生の地域に対する愛着度をどう高められるのか。という課題に地域を自慢することで高められるのではないかという仮説を実証するために取り組みました。

複業&独立の例 … 創業5年で増していくティール色



漁師の銭湯&朝ごはん屋 創業！

企業人材育成は引き継ぎます！
合同会社colere 創業



移住センターMINATO
New チーフ

実は看護学校の先生、
ケーブルテレビの
アナウンサーも

MINATOの
地域おこし協力隊

そのうち
仁屋として
独立します！



2019&20年度のスローガン

やっちゃん まるオフィス

気仙沼イチ、自由で責任のあるプロフェッショナル集団へ

加藤さんの言う、学びとは、地域が生き残りのための教育ではなく、その子どもが、どんな未来を目指しても後押しする学びの機会です。

気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード（気仙沼市主催）



教育とは、その人が自由になるためのものであり、それを気仙沼市の環境(資源)を活用して次の世代を担ってもらう学びです。

その学びにより、自分の夢を育み活躍するようになったら、育ててくれた地域への愛着、貢献したいと思う気持ちが育つという考え方です。

最後に加藤さんは、これからの日本社会の行く末について、京都大学と日立製作所が2017年9月5日に発表した「AIの活用により、持続可能な日本の未来に向けた政策を提言」から、日本の進む道は、「都市集中型」と「地方分散型」の2つの進む道があり、財政上は、「都市集中型」。しかし個人の健康寿命や幸福感は「地方分散型」としているけれど、私は、地方分散型でいくべきではないかと話題を提供しました。

このAI提言には、今から8~10年後(2017年9月5日に発表時点)に、都市集中シナリオと地方分散シナリオとの分岐が発生し、以降は両シナリオが再び交わることはない。という、どちらかの道を選択し実行しなければならない。とされています。

持続ある農山漁村の未来のためにも、新たな取り組みを農山漁村が展開していく必要性を感じました。

「AIの活用により、持続可能な日本の未来に向けた政策を提言」については、オーライ!ニッポンブログでも紹介していますので、ご参考までご案内します。

(本ブログから、日立製作所のニュースリリースのページと、分析した京都大学の広井 良典先生のわかりやすい解説ページをリンクしていますので、ご関心ある方は併せてご一読ください。)

<https://blog.canpan.info/ohrai/archive/173>

一般社団法人 まるオフィス <https://maru-office.com/>

メール:info@matsurism.com

今セミナーは、ALLオンラインの初の試みとして、宮城県気仙沼市から全国へオンライン配信しました。講師の加藤 拓馬さん、本セミナーにご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。